

# 四国地方整備局管内技術・業務研究発表会について

— 企画部 企画課 —

7月28日、29日の2日間、平成22年度四国地方整備局管内技術・業務研究発表会を高松サンポート合同庁舎内会議室で開催しました。

発表会は、香川大学並びに高知大学の先生方をお迎え、四国地方整備局、四国4県、高知県宿毛市、(独)水資源機構職員の参加のもと一般公開で行いました。

発表は、大学の先生方による模範発表2題と、一般部門(安全・安心に暮らせる四国づくり、交流・連携による四国づくり、人と自然にやさしい四国づくり、業務改善等への取り組み)、アカウントビリティ部門、イノベーション部門の3部門52題の合計54題で行いました。

開会にあたり、足立局長から「本研究発表会で発表することにより、自ら行ってきたことの技術的検証を行い、それを整理することで大きな成果が得られる。また、多様な発表を聴講することにより、あたかも自分が経験したかのように物事を習得できる利点もある。本研究発表会が大きな成果をあげることを期待する。」との挨拶がありました。

その後、アイホールと13階会議室の2会場に分かれて、2日間で約610名の参加のもと発表を行いました。

論文発表を受けて、論文審査委員長である小池企画部長から「発表は自分の言葉で自分の考えを述べ、聞いている人の目を見て話すように。最初に論点整理をしている発表は分かり易かった。ぜひ次回もチャレンジしてほしい。」との講評がありました。

そして、52論文の中から17論文が優秀論文に選ばれ、西本次長より表彰状が授与されました。

また、大学からの発表者に感謝状が贈られることとなりました。



第2会場  
(1306.07会議室)



第1会場  
(アイホール)

発表会場の様子



足立局長 開会挨拶



小池企画部長 講評



なお、優秀論文のうち、4論文が10月28日、29日に開催が予定されている「平成22年度国土交通省国土技術研究会」に推薦されました。

優秀論文17論文と、平成22年度国土交通省国土技術研究会に推薦されることになった4論文は下表のとおりです。

※組織順

No.	部門	発表課題	所属	発表者	備考
1	一般部門	四国地方整備局における 民間プローブデータの導入検討について	四国地方整備局 道路部 道路計画課 計画第二係	森 貴洋	
2	アカウント ビリティ部門	国道55号日和佐道路 美波ゆめトンネルの水枯渇対策について	徳島河川国道事務所 工務第二課 道路工務第二係	松下 友聡	
3	一般部門	那賀川における土砂還元に関する モニタリングについて（河床変動）	那賀川河川事務所 調査・品質確保課 調査係	尾嶋 百合香	
4	一般部門	自転車走行時の心理的負担に着目した 自転車走行空間の比較評価	香川河川国道事務所 道路調査課 調査係	只信 紗也佳	●
5	一般部門	香川県直轄道路事故多発区間における 事故対策の取り組み	香川河川国道事務所 交通対策課 交通対策係	服部 大輔	
6	一般部門	国道33号サイクル&バスライド実証実験の報告	松山河川国道事務所 調査第二課 調査第一係	緒方 玄司	
7	一般部門	一般国道33号 天山交差点改良	松山河川国道事務所 道路管理第二課 交通対策係	伊藤 誠悟	
8	一般部門	高光高架橋（新直轄）の工事報告	大洲河川国道事務所	中野 晴樹	
9	一般部門	肱川水系大和（上老松）地区 土地利用一体型水防災事業の紹介	大洲河川国道事務所 用地第一課 河川用地第一係	笠井 智仁	
10	一般部門	高知海岸における水防警報海岸の指定について	高知河川国道事務所	清水 宰	●
11	一般部門	四万十川支川後川安並地区における 漏水対策工事の報告	中村河川国道事務所 工務第一課 河川工務係	北川 誠純	
12	一般部門	吉野川上流域における気象モデル（WRF）を 用いた降雨予測システムの構築について	吉野川ダム統合管理事務所 調査・品質確保課 計画係	造田 康盛	
13	一般部門	松山空港エプロンルーフ社会実験結果について	松山港湾・空港整備事務所 保全課	藤野 明	
14	イノベー ション部門	四国沿岸域を対象とした 防災総合数値解析システムの構築	高松港湾空港技術調査事務所	杉浦 悠介	●
15	一般部門	マリニピア沖洲第2期事業における ルイスハンミョウのミティゲーション	徳島県 県土整備部 運輸総局 運輸政策課	大塚 弘之	※●
16	一般部門	徳島環状線（川内工区）における 土木環境配慮アドバイザー制度の活用について	徳島県 東部県土整備局 （徳島）環状道路担当	大西 孝司	
17	一般部門	計画規模を超えるダム操作を睨んだ 「下流巡視マニュアル」の作成について	独立行政法人 水資源機構 池田総合管理所 早明浦ダム・高知分水管理所	濱田 哲郎	

●印は国土交通省国土技術研究会への推薦

※印はアカウントビリティ部門として推薦

最後に、西本次長より「本研究発表会は、発表の立場からすると、技術の研鑽、伝承、プレゼン訓練として意義がある。また聴講の立場からすると所属は違えども、技術等の蓄積が出来て一定の役割が果たせた。発表は分かり易くなった一方で、パワーポイントや読み上げ原稿の作成等かなりの労力をかけているので工夫の余地がある。」との閉会挨拶で2日間の研究発表会を締めくくりました。



西本次長 閉会挨拶

発表者の皆様、業務多忙の折、お疲れ様でした。



『優秀論文受賞者』



# 8月は「道路ふれあい月間」です!

— 道路部路政課・道路管理課 —

また明日 きっと歩こう この道を

平成22年度「道路ふれあい月間」推進標語入選作品(最優秀賞)

神奈川県 加藤 広大 さん 13歳

## ● 「道路ふれあい月間」

8月1日から31日までの「道路ふれあい月間」は、道路を利用している国民に改めて道路とふれあい、道路の役割及び重要性を再認識してもらい、さらには道路をいつくしむという道路愛護活動の推進及び道路の正しい利用の啓発をはかり、道路を常に広く、美しく、安全に利用する気運を高めることを目的としております。

## ★ 「道の日」

道路は、国民経済を支え、国民生活を維持するために欠くことのできない基本的施設であるが、あまりにも身近な存在であるため、その重要性が見過ごされがちです。そこで、国土交通省では、道路の意義・重要性に対する国民の関心と道路愛護の精神を高めることを目的として、昭和61年度から8月10日を「道の日」としています。

なぜ、8月10日が「道の日」?

- ① 大正9年8月10日に、わが国で最初の道路整備についての長期計画である第1次道路改良計画が実施されたこと。
- ② 「道路ふれあい月間」(8月1日～31日)の期間中であること。

